平成 30 年度　第 1 回石狩市健康づくり推進協議会

■日　時　　平成 30 年 6 月 8 日（金）　18 時 30 分～20 時 00 分

■場　所　　石狩市役所 5 階　第 1 委員会室

■出席者　　下表のとおり

委 員			職 員（事務局）	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	阿部　包	○	保健福祉部健康推進担当部長	上田　均
副会長	沢田 茂明	×	保健福祉部保健推進課長	武田　渉
委員	中川 賀嗣	○	保健福祉部スポーツ健康課長	村谷　栄治
委員	我妻 浩治	○	保健福祉部保健推進課主査	廣瀬 芳江
委員	天野 真樹	○	保健福祉部保健推進課主査	白川 晃子
委員	江頭 裕二	○	保健福祉部保健推進課主査	竹瀬 麻紀
委員	大原　宰	×	保健福祉部保健推進課主査	笠井　剛
委員	清野 和彦	×	保健福祉部保健推進課主任	田口 聖悟
委員	清水祐美子	○	保健福祉部保健推進課主事	中尾　紅音
委員	飯田 鉄蔵	○		
委員	大澤 順子	○		
委員	田制 恵子	○		
委員	犬上十美子	○		
委員	三国 義達	○		
委員	佐々木隆哉	○		

■傍聴者　　1 名

1．開　会

事務局（笠井主査）

皆様こんばんは。

本日はご多忙の折、お集まりいただき御礼を申し上げます。

定刻まで少しお時間がありますが皆様おそろいですので、ただいまより、「平成 30 年度第１回石狩市健康づくり推進協議会」を開催いたします。

会長に議事進行をゆだねるまで、私、保健推進課の笠井が進行役を努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局（笠井主査）

先ずは、資料の確認をいたします。本日の資料は、事前に配付させていただきました、「協議会次第」をはじめ、「座席表」、「委員名簿」、「石狩市健康づくり推進協議会設置要綱」、そして、資料１から資料３をまとめた別冊の、「平成 30 年度第 1 回石狩市健康づくり推進協議会資料」と

なっておりますが、本日、田制委員に、ご出席をいただけることになりましたことから、お手元に、差替え資料として、「座席表」をお配りしております。座席表はそちらをご覧いただきたく思います。

それでは、別冊資料をご覧ください。表紙をめくっていただき、１ページから２ページまでが、資料１「石狩市産後ケア事業（訪問型）について」、３ページから７ページまでが、資料２「石狩市健康づくり計画の進捗状況について」、最後に８ページから９ページが資料３「石狩市自殺対策行動計画の策定について」となっております。

また、本日、皆様のお手元に、「諮問書の写し」と、「量るだけダイエット終了のお知らせ」をお配りしております。

もし不足や落丁、事前送付資料のお忘れなどがございましたら、事務局にお知らせ願います。

みなさん、よろしいでしょうか。

なお、以降の進行及び事務局員からの説明等につきましては、大変恐縮ですが座って進めさせていただきます。

ここで、事務局より本協議会の成立要件について、ご報告申し上げます。本日は、委員１５名のうち、12 名の委員の出席を得ておりますので、設置要綱第６条第２項の規定により、本協議会は成立となることをご報告申し上げます。

それでは、協議会次第に従いまして、次第の２「諮問書交付」に移ります。本日の議題となっております、「産後ケア事業（訪問型）の自己負担額について」、皆様に資料を事前に送付させていただきましたが、昨年６月開催の本協議会にて、自己負担額の在り方をお諮りし、昨年７月より事業化しました「産後ケア事業」につきまして、より利用しやすい事業とするべく、新たに「訪問型」を導入するものです。本年７月からの事業化を目指しており、この訪問型につきましても、宿泊型と同様に、国の補助を活用することから、そのルールに基づき、利用者から、一定程度の自己負担を求めることが必要となります。このことから、利用者の自己負担の在り方など、諮問事項として、この事業内容をご審議いただく必要がございますので、本協議会設置要綱第２条に基づき、「諮問書」を会長に交付させていただきます。

それでは、「諮問書」を、保健福祉部　健康推進担当部長　上田より、阿部会長に交付いたします。

２．諮問書交付

事務局（上田部長）

それでは、代読させていただきます。

石狩市健康づくり推進協議会会長　阿部　包（あべ　くるみ）様。次の事項について、石狩市健康づくり推進協議会設置要綱第２条の規定に基づき、貴協議会の意見を求めます。

石狩市産後ケア事業（訪問型）につきまして、利用者より一定程度の自己負担を求めることとしておりますことから、本事業の制度化に向けて、利用者に求める自己負担の在り方についてご審議いただきたく、諮問致します。

平成３０年６月８日、石狩市長　田岡　克介。よろしくお願いいたします。

阿部会長

謹んで承ります。よろしくお願いいたします。

事務局（笠井主査）

ありがとうございました。委員の皆様には、よろしくご審議を賜りますよう、お願い申し上げます。

３．審　議

事務局（笠井主査）

これより審議に入りたいと存じますが、以後の進行につきましては、阿部会長にお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

阿部会長

皆様、お疲れ様です。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。それでは、早速、次第に従い進めて参ります。

本日の議題は、次第の３「産後ケア事業（訪問型）の自己負担額について」の諮問事項と、次第の４の報告事項として、

１つ目は、石狩市健康づくり計画の進捗状況について

２つ目は、石狩市自殺対策行動計画の策定について

３つ目は、本協議会の委員改選について

でございます。

以上、諮問議題１件、報告事項３件となっておりますが、限られた時間でもございますので、皆様のお力をいただき、円滑な運営を心がけたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

まずは、諮問事項の「産後ケア事業（訪問型）の自己負担額」について、事務局から、ご説明いただき、その後、本件に関し、皆様からのご意見などをいただきたいと存じます。

それでは、事務局からご説明願います。

事務局（竹瀬主査）

それでは、石狩市産後ケア事業訪問型について、保健推進課竹瀬からご説明させていただきます。

初めに産後ケア事業の訪問型を導入する経緯についてですが、昨年７月に産科や助産院に宿泊をして母親の休息とケアをしっかり受けていただくための宿泊型を開始しましたが、産後、上の子がいるなどで外出しにくい方や、厚田区・浜益区など遠方に住んでいる方の利便性を考慮した事業が必要と考え、この度、訪問型のサービスを拡充するものです。

では表紙をおめくりいただき、資料１をご覧ください。

事業の目的といたしまして、出産後に、家族などから十分な家事や育児等の援助が受けられず、母親の心身の不調又は育児不安があるなど、支援を必要とする方を対象に、心身の休息と育児不安の解消を図る機会を提供し、親子の愛着形成を育み、そして産後も安心して育児が継続できることを目的として行います。

次に概要についてです。

（１）実施施設につきましては、市内にあります三浦母乳育児相談室を予定しており、そこに所属している助産師が訪問を行います。

次に対象者につきましては、市に住所を有する生後4か月未満の乳児とその母親であり、家族などから十分な家事、育児等の援助が受けられない方で、心身の不調又は育児不安がある母を対象としております。

次に内容ですが利用回数は5回までとし、利用日時は、原則月曜日から土曜日の9時から17時までとしていますが、事情に応じて利用者と実施施設の間で日時の変更は可能としています。ほか、産後ケア宿泊型と併せて利用できるようにし、宿泊1泊を1回と数え、訪問と宿泊の回数を合計し5回まで利用できることとしました。

ケア内容につきましては、母親の精神的ケアや乳房ケア、沐浴や抱っこの仕方等の実際の育児に関する練習、母親の体力回復のために休息ができる時間を設けることや、育児相談、赤ちゃんの発育発達確認、そして今後の子どもとの生活についての相談など、必要に応じたケアを受けていただくようにしています。

次のページをご覧ください。

石狩市産後ケア事業（訪問型）の自己負担額（案）についてですが、一般世帯を1回600円とし、生活保護世帯と市民税非課税世帯を無料に設定しました。

一般世帯の自己負担額は、事業の委託経費の約1割相当額とし、これについては、昨年開始した宿泊型の算定方法と同様にしています。

また、生活保護世帯・市民税非課税世帯についても宿泊型の算定方法を基としました。宿泊型は非課税世帯の入院時食事療養費の日額を参考にし、食事代と考え設定しましたが、訪問型は食事が含まれないことから無料としています。

世帯の所得の考え方としましては、夫婦の所得を世帯の所得とし、ひとり親については、母親のみの所得で、自己負担額を算出することにしています。

また国が示しています自己負担額の設定要件及び基本的な考え方につきましては、産後ケア事業の運営要綱に、「利用者から利用料を徴収すること。ただし利用者の所得に十分配慮すること」となっていることから、所得に応じた自己負担額を設定しています。

最後に事業の実施は、今年度7月1日を予定しております。

これら産後ケア事業（訪問型）の内容と自己負担額の設定について、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

私からは以上です。

阿部会長

ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、これより、ご質問・ご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

事務局（武田課長）

一点追加があります。竹瀬より説明申し上げます。

事務局（竹瀬主査）

資料１の内容で追加したい部分があったのですが、訪問は一回一時間程度で訪問することとしております。

阿部会長

はい。カッコ３の内容のところですね。追加です。一回約一時間ということで追加をお願いします。それを加えた上で、大澤委員どうでしょうか。

大澤委員

参考に苫小牧市の産後ケア事業が載っていますが、訪問型の自己負担額が一回 1,200 円ということで、当市が実経費の約一割程度ということで 600 円を設定されているのですけども、この違いというのはどういう風に捉えたらいいのかなと思います。苫小牧は、1,200 円なのに、二分の一になってしまったのかなと疑問に思っております。

阿部会長

事務局から説明願います。

事務局（武田課長）

武田です。こんばんは。基本的に料金は、それぞれの自治体で決めるので、金額が違って当然なのですけども、そこのまちの考え方もありますし、苫小牧市さんは先進地で先に取り組んでいたと存じ上げますけれども、具体的な金額の積み上げの確認はしているわけではございません。600 円というのは、前回の宿泊型を決めるにあたっては、札幌市が導入していた実績をもとに金額を設定しました。その時の考え方では、約一割を札幌市では設定している。そして、当市が設定するにあたっても、札幌市と同じ助産院を使ってサービスを提供して、内容も一緒だという事でいくと、契約先の助産師さんとの契約も金額もほぼ一緒になりますし、それから負担額をどうしようかと札幌市に合わせ、実経費の一割の 3,000 円に設定したところです。今回も、前回の宿泊型の場合のように、できるだけ安くしたいということはあるのですけれども、無料にするわけにはいかないという制度上の都合もあり、いくらか頂かなければなりません。宿泊型事業がベースになりますので、宿泊利用料 3,000 円というのが委託料の一割ということで、今回の訪問型の委託料は約 6,000 円になりますので、その一割を頂くという事となりました。苫小牧市さんとの

比較となると安いという部分で見ていただけると良いかなと思います。

大澤委員

分かりました。ありがとうございました。

阿部会長

飯田委員、何かございませんか。

飯田委員

一回の 1,200 円と 600 円の違いは何かなと思うのと、資料の方には入っておりませんけど、前の１ページ目には書いてますけども、利用できる回数は５回という事で、苫小牧が 1,200 円で１０回までで、石狩は 600 円で５回までという、その金額の差と回数の差はなぜなのだろうと、どこに要因があったのだろうと聞きたたかったのですが、金額の方はお答え頂いたので、回数の方はどうなっているのかな思います。

阿部会長

事務局から説明願います。

事務局（武田課長）

回数ですが、宿泊型をつくるときに５回というのは、札幌市が４回で石狩市は５回にしたのですが、助産師会と契約に当たっての打合せの中で要望も受けて、一泊増やして５回にしました。それがベースになります。実際の利用実態を苫小牧市さんに聞くと、3.4 回ということで、５回の設定で適当ではないかということでご提案させて頂いております。

阿部会長

はい、ありがとうございます。要するに、苫小牧は最大 10 回になっているけれども、実利用回数は 3.4 回ということで、５回にしたという事ですね。よろしいですか。

その他ありますでしょうか。

天野委員、どうぞ。

天野委員

訪問している保健師さんに聞きたいんですが、乳児全家庭訪問事業の次に繋がる事業だと思っているのですが、産まれたら自治体の保健師さんが行って、困っている事があったら、こういう事業がありますよと紹介していく事業で、これがすごい核になると思うのですが。これがあることで訪問時での事業の説明がしやすく、次に繋げられると思うのですが、その世帯の中で、支援が必要な世帯というのはいっぱいあると思うのですが、その世帯で一般世帯の方が多かったとしたら、生活保護・非課税世帯は無料だから、とっつきやすいと思うんですけれども、この 600

円という数字は、勧めた時に利用してみるかなと思える数字なのかどうか聞きたいというのと、多分、健康づくり推進協議会に出されているので、健康づくり計画の中でどこらへんに考えているのかなと、これがもしこの訪問型の事業が、次に繋がるとするのであれば、さっき 1,200 円や 600 円という話しがあったのですが、自己負担を減らすと社会の負担が増えるけど、みんなと支える、次に繋がるっていうのでれば、石狩は低くしたというのは分かるかな思い、計画のどこらへんに位置しているかと、２点お尋ねしたかったです。２点目は、保健師さんでなくても良いですけども。１点目は保健師さんが訪問した際の感覚で、600 円で来てもらえるか思えるかどうかで。

事務局（竹瀬主査）

私達は一ヶ月前後の時に、赤ちゃん訪問をしているのですが、この事業を使うか使わないかは、対象としての要件があるので、まず、対象になるかならないか、ならないで必要な方は私達も継続して支援はしていくのですが、対象になる方でこの事業をおすすめするのに、この 600 円がどうなのかですね。

天野委員

払いやすいのかなっていう。もし金額で、勧められる家庭が多いのか分からないのですが、一般世帯が多かったとして、自分たちがすすめないといけないとして、600 円で受けませんかといった時に受けてくれるかどうか、妥当な数字なのか高いと言われるのか、それとも多くても大丈夫だといわれる感じなのか、そこを聞きたいなと思います。

事務局（武田課長）

基本的には、金額の設定にあたっては適切だと判断して提案しております。それで、実際今回の特徴は、こちらが出向くというサービスになってますので、本来であれば、自ら出て行って、ガソリン代を払ってとかバス代を払ってという仕組みが、ほぼ他の自治体では日帰り型が基本なんですが、こちらから出向くという部分でいくとトータルベースで考えると、決して高くないと思っています。実際利用してもらって、実情を聞かなければならい部分もあるかもしれないですが、感触的には適切だと思っています。

それと、計画との関連ですが、今回の事業がストレートに健康づくり計画のメニューにはございませんけれども、ミッション別にいきますと 18 ページの３の休養・心の健康という分野にあたるかなと思っています。今回の産後ケアの事業が進められた背景には、昔は大家族であり、周りが妊産婦さんをサポートしたりとか、現在とは違う環境があって、現在は孤立しているということが言われておりまして、産後うつとか妊産婦がうつになっていくという大きな社会問題があるところから始まっております。体も当然ケアしますが、心のケアが重点だろうという観点から計画と繋がりがあるものと考えております。

阿部会長

ありがとうございます。よろしいですか。

天野委員

この事業が良いとか悪いとか聞いているのじゃなくて、保健師さんがどう思うのかなというのを聞きたかったんですけど、武田課長は乳児の世帯を訪問されてないですよね。だから、実際に訪問している人がどう感じているのか、もしかしたら、この産後ケアが生活保護や非課税世帯ぐらいしか必要ないのであれば、この金額でもいいのだけれども。一般世帯で、父親母親がいる家庭でも、この間事故が起こって、亡くなっているわけだから、払えるのか払いやすくないのかなという、多分何十件か出てきているはずだから、その中でどうなのかというのを聞きたかったんですが、武田課長の話だと僕が聞きたかった話ではないなと思います。答えにくいようでしたら、これで良いです。

事務局（竹瀬主査）

今回、先に昨年７月から宿泊型の方の事業が開始して、自己負担額一泊 3,000 円で設定しましたが、皆さんどう感じているのかという事でアンケートを取っています。皆さん、一泊 3,000 円というのは、適切で良い値段だということでアンケートには書いてあったので、皆さんそう感じて下さっているのだなというのが感想です。今回 600 円という事なんですが、例えば産後の誰も居ないところで、手伝いの方をお願いするような「ファミリーサポート事業」があるのですが、それの一時間の利用は大体同じくらいの利用料金となっております。それを、お金を払って利用される方もいますし、それを考えますと一回 600 円というのは皆さんご負担できる金額じゃないかなって思います。あと乳房トラブルで母乳育児相談室で、一回一時間ケアを受けるとしたら、基本は 3,000 円がかかります。それは、受ける人、受けられない人がいるんじゃないかなていうのが率直な感想です。乳房ケアも利用できて、一時間 600 円ということなので、利用できる人は勧めて利用して頂き、利用される側も考えて利用できる位の値段じゃないかなと感じています。

天野委員

わかりました。

阿部会長

ありがとうございます。よろしいですか。

天野委員

はい。

阿部会長

ほか、ご意見ございますか。

犬上委員

一回何時間かというのを質問しようとしていたのですが、１時間という話しだったのですけども、１時間でこの目的を達成してお母さんの不調とか育児不安の相談とか乳房マッサージとか一時間で出来るのかなって思います。普通に喋っていても女の人同士とか女子会はもう１時間というのはあっという間で、私は最低２時間とか半日とかで、ゆったりした方が、安心感があるんじゃないかと思っていたのですけれども、この時間帯は他の自治体もこんな感じなんですか。

事務局（竹瀬主査）

モデルにしたのが苫小牧市さんなので、苫小牧市さんも一回１時間程度で最長２時間となっております。石狩市も原則は一回１時間程度ではありますが、契約の中では２時間未満としているので、延長しても２時間までは助産師さんのケアを受けられる形に、契約上はなっています。

犬上委員

その一回２時間で目的は達成されるとお考えなのですか。

事務局（竹瀬主査）

契約するので、ある程度の時間の縛りというのは必要なのかなと思います。例えば一回で進まなかった場合は、継続して利用できる事は可能なので引き続き利用して頂くとか、ある程度のケアは終わったのだけれども、育児に不安を持っているようだということでしたら、保健師に引き継いでもらえれば、地区担当の保健師が伺うことが可能かと思います。

犬上委員

それは無料なんですよね。

事務局（竹瀬主査）

保健師は無料です。

阿部会長

よろしいですか。

犬上委員

はい。ありがとうございます。

事務局（武田課長）

この事業は、実施主体が今回三浦さんですけれども、必ず報告が上がってきてその内容によって保健師が、サポートしていく事業ですので実際我々が出来ない部分は継続して何回か利用してもらいますが、それ以外のサポートというのは引き継いでやっていきますので、今までこの制度がなかった時と比べると、十分サポート出来るかなと思います、それと、専属のコーディネーターもおり、一人に掛ける時間も制約なく、我々もサポート出来ますので、かなり充実出来るかなと思っています。

阿部会長

はい、ありがとうございます。時間についても、２時間までは可能というであります。よろしゅうございますか。

中川委員

確認だけなのですけれども、対象者のところに、医療行為が必要な方は不可という事で、子どもさんが医療行為が必要なときは、問題ないですよね。対象になるんですよね。それは関係ないですよね。これは、お母さんに対しての医療行為が必要な場合には、対象外という事ですか。

事務局（竹瀬主査）

例えば医療行為が医療従事者じゃなきゃいけないようなお子さんのケアとかだったら、難しいと思うのですが、必要に応じて親がそのケアを出来る範囲でしたら対象かと思います。

中川委員

わかりました。対象になるだろうという事ですね。ありがとうございます。

阿部会長

よろしいですか。はい、ありがとうございます。よろしければ、特に言っておきたいという事がある方がいらっしいましたら、よろしいですか。

（なしの声）

はい、いくつか貴重なご意見・ご質問を頂きました。ただ、事業の内容自体には大きな変更を要するものではないと判断出来るものですので、原案通りの内容で協議会としては、「特に支障なし」という事で、答申させて頂きたいと思いますけれども、よろしゅうございますか。

（異議なしの声）

はい、ありがとうございます。それでは、そのように答申させて頂きたいと思います。

なお、今回の結果に基づき、答申書の内容につきましては、私と事務局とで調整し、市長に提出したいと思います。

４．報告事項

阿部会長

それでは報告事項に入りたいと存じます。

１点目の、「石狩市健康づくり計画の進捗状況」について、事務局より説明をお願いします。

事務局（廣瀬主査）

みなさん、こんばんは。保健推進課の廣瀬と申します。よろしくお願いします。

私からは、石狩市健康づくり計画の進捗状況についてご説明させていただきます。

事前にお配りした資料の３ページをご覧ください。

本計画は、平成 28 年度から平成 35 年までの８年間を計画期間としており、今年度は、計画の３年目となっています。

計画の具体的な取り組みは、８領域あわせて 68 項目ありますが、平成 29 年度まで実施した取り組みは 54 項目、30 年度の実施は 10 項目、31 年度以降に実施予定の取り組みは、４項目となっています。

それでは、平成 29 年度の取り組みと 30 年度の予定についてご説明いたします。時間の都合上、全てご説明することは難しいので、各分野についていくつかかいつまんでご説明させていただきます。

まず、計画全体にかかる事項ですが、市のホームページ等による周知を行ったほか、昨年に引き続き、8 領域の計画について領域ごとの健康情報を作成して町内回覧を用いて周知しました。今年度も、継続して実施します。計画書の配布につきましては、健康づくり応援団に配布する計画でしたが、応援団の組織化ができなかったことにより未着手となりました。

次に領域１番の「栄養・食生活」についてご説明いたします。

ミッション１では、①の「量るだけダイエット 100 日」作戦を実施しました。参加者は、199 名、100 日間体重を測定して報告を得た人数は 142 名でした。そのうち、3kg 以上減量した人の割合は、14%でした。事業の結果については、本日お配りしました資料もご覧ください。この資料は、今年の広報いしかり３月号の記事で、ご覧いただいた委員さんもいらっしゃると思いまが、市民に事業結果をこのように報告いたしました。

また、資料の一番下に表彰式の写真がありますが、肥満度ＢＭＩの減少が大きかった上位３名を優秀賞として、４位から 10 位を努力賞として、取り組み内容がすばらしかった方３名に努力賞を授与しました。最も減量していた人は－8.7ｋｇ、腹囲は－11.1ｃｍでした。今年度は、減量効果がより向上するように内蔵脂肪測定に来ていただいた時に個別にアドバイスする時間を設けたり、運動講座を増やすなどの改善を加えて実施します。また、事業名称の「量るだけ」は、「量って」と名称を変え、内臓脂肪だけでなく、体組成や腹囲も測り、その変化を評価すること

とします。

ミッション２については、⑤の「野菜バリバリ作戦」において、食生活改善推進員さんに野菜を多く使った簡単・ヘルシーなレシピを作成していただき、レシピ集としてまとめたものを「量るだけダイエット 100 日作戦」の参加者に配布しました。また、藤女子大学の学生さんに依頼し、ブロッコリーを使用したレシピを作成しました。なぜブロッコリーを選んだかといいますと、石狩市でブロッコリーの作付面積が増えていることから地産地消の観点と健康効果が高い野菜といわれているためです。レシピ集は、講演会の参加者に配布したほか、商工労働観光課で発行している地産地消の店のパンフレットと一緒に公共機関や市内飲食店などで配布しています。今年度は、キッズシェフ養成講座に着手します。まずは、児童館２ヶ所で夏休みと冬休みの期間に講座を実施します。ここでも、藤女子大学と食生活改善推進員さんのご協力をいただく予定となっています。

次に４ページをご覧ください。領域２番の「身体活動・運動」では、ミッション１の農園ウォーキングやその他ウォーキングイベントを実施したほか、厚田道の駅オープンにちなんで、道の駅を巡り道内を一周する「はりきりウオーキングラリーpart４」を作成して、今年度から実施しています。

ミッション２では、ラジオ体操講習会や貯筋運動講座を実施しました。今年度も継続して実施します。ミッション４については、ながら体操とあわせて雪エクササイズの講習を行ないました。また、冬期運動会作戦について、関係機関との企画調整を行い、今年度、雪合戦大会を実施する予定です。

続いて、領域３の「休養・こころの健康」ですが、ミッション１の②「おせっかいは、あったかい作戦」で、おせっかい俳句コンテストを実施しました。応募 56 人、134 句の中から大賞１句、優秀賞３句、佳作９句を選句し、皆様には石狩健康づくり協議会賞１句を選句していただきました。ありがとうございました。表彰は、３月に開催した心の健康講座の場を借りて実施しました。今後、心の健康の周知・啓発に活用します。今年度は、市内企業等に対してこころの健康づくりに関する出前講座を周知し、希望があった企業に実施します。

次に５ページ、領域４の「喫煙」をご覧ください。ミッション１の③「まずは市役所作戦」の取り組みとして、市職員へのメール配信を継続して実施したほか、商工会議所会員、市職員を対象に受動喫煙防止セミナーを実施しました。また、⑤の「禁煙週間集中作戦」において、禁煙週間に町内回覧で受動喫煙防止の啓発を行ったほか、コミセンなど市内７箇所の公共施設で禁煙および受動喫煙防止のパネル展を行いました。今年度は、毎月実施している健康相談にあわせて禁煙相談を実施する予定で、指導マニュアル作成など準備をすすめているところです。

次に６ページ、領域５の「飲酒」をご覧ください。

ミッション１の②「石狩レシピ・マリアージュ作戦」では、「量るだけダイエットおかず集」に望ましい飲酒量を掲載して参加者に配布しました。今後、レシピ集をＨＰ等にも掲載して周知します。ミッション２の②では、花川病院の協力をいただき、レバンガ北海道の選手による啓発のポスターを作成し、公共施設に掲示しました。これから、学校にもポスターを掲示します。また、新規事業として若者を対象にアルコールパッチテスト及び未成年の飲酒防止に関する啓発を実施

します。

続いて、領域６の「歯・口腔の健康」をご覧ください、ミッション１の④「親子でブラッシング作戦」では、子育てひろばにおいて歯科衛生士の講話とブラッシング指導を行ないました。今年度も実施するとともに①の作戦のブラッシング体操のＤＶＤを作成します。

ミッション２の②「歯周病啓発作戦」は、昨年に引き続き、10 月に実施した石狩いきいきフェスタにおいて札幌歯科医師会のご協力をいただいて「歯っぴーライフコーナー」を設置し、口臭や噛む力、虫歯菌の測定を行い、歯科医師・歯科衛生士による相談を行いました。70 名の利用があり、好評なため今年度も実施する予定です。

ミッション３では、昨年度より市内医療機関に委託して行なっている歯周病検診を継続して実施したほか、歯周病予防啓発のポスターを作成し、公共施設や医療機関に掲示しました。

次に７ページ、　領域７「生活習慣病予防」をご覧ください。

ミッション１では、「レディースけんしん」を１回増回したほか、未受診者に電話やハガキなどによる受診勧奨を行いました。今年度は対がん協会へのバス送迎検診に日曜日をあらたに設定したほか、レディース検診を６回に増やしました。また、この秋から集団検診のインターネット予約を導入して利便向上を図ります。

ミッション３の取組では、「量るだけダイエット 100 日作戦」において内臓脂肪量測定器による測定を延べ 233 名に対して実施しました。

最後に、領域８「地域社会の健康づくり」ですが、ミッション１の②「健康づくり応援団作戦」は、まず、「量るだけダイエット 100 日作戦」をきっかけとして協力していただける商店や飲食店等を募り、33 のお店等の協力を得ましたが、その後の組織化には至りませんでした。今年度、引き続き参画団体を増やして応援団の役割や内容を具体化して組織化を目指します。③「ごほうび作戦」については、昨年度に引き続き北海道が主催する健康マイレージ事業に参画して参加者は 95 名でした。また、「量るだけダイエット１００日作戦」で特典として行なったスタンプラリーは、33 の商店や飲食店等の協力を得て実施しましたが、ポイント還元者の割合が一割程度と低かったため、ポイントを貯め易い内容に改善して実施します。

私からのご説明は以上です。

阿部会長

ありがとうございました。只今の説明について、委員の皆様から質問等をいただきたいと思います。確認したい内容等ございましたら、よろしくお願いします。どうでしょうか。

天野委員

意見なのですけど、いつも実績の取組みという、やった事だけなんですよね。内容と効果が書いていないから、例えばスマートペアレント作戦とかっていう、パンフレットを配布とか、４ページの質の良い睡眠を取ろう作戦、いきいきフェスタでパンフレット配布だとか、市役所作戦でも職員にメールを配信だとかって、それが全部継続となっていて、ほとんど広報って一方的で簡単に手を付けやすいものだからこそ、実績というかこういうような内容をやって、どういう効果

があったかっていうことを、書かなきゃ次の取組がどうして継続実施なのかっていうのが、出てこないと思うのですけども。ちょうど資料の中の８ページが付いてたので、８ページに自殺対策で、これは石狩市が作ったものではないけど、第２番に地域レベルの実践的な取組み、ＰＤＣＡサイクルを通じて推進するって書いてますが、色んなもの推進してるんですが、石狩市でやってるものはＰ・Ｄしかないんですよ。効果を見て、次の時に、例えば具体的な取組みが目標じゃなくて、ミッションの内容が目標だから、ミッションの内容が上手くいかないのであれば、具体的な取組みもちょっとずつ変えていかなきゃならないんでないかと思うんだけど。なんとなく具体的な取組みっていうのが、目標になって進んでいるという感じで、パンフレットとかって前にも言ってるんですが、実績っていうのが、内容と効果がきちんと書かれてないから、次の取組みにどうして繋げるのかなと、まったくというのは変だけれども、多いなという印象です。

事務局（武田課長）

天野委員のおっしゃるのはごもっともですが、実際啓発活動は、委員の皆さんは計画策定に携わっており、この計画の基本とする部分をご理解頂いているかなと思いますけれども、意識改革がなかなか進まないという事と、継続的に物事を発信していく必要性があることも踏まえて、色々な場面で健康づくりをやりたくなるような取組みを進めましょうという事であります。基本的に一年目、二年目、三年目と情報発信するというのは大事かなと思っていますし、健康づくりの意識に気付き、自ら取組もうという人には伝わってくるポスターになってくると思います。複合的に様々なことを続けていく事が大事だと思っていまして、まずはパンフレット等を掲示するっていうのが基本です。効果的な部分で言いますと、パンフレット等を掲示したから、どういう効果を得たかという測定方法は基本的にないかと思っていまして、ひとつひとつの事業が評価出来ればいいのですが、出来ない部分もあるかと思っています。

来年四年目には中間評価をやります。様々なアンケートの中で、見えてくるものもあるかと思いますので、継続して行うということと、パンフレットなりポスターなり作る際には、視点を変えたり、ターゲットを変えてみたりとかアプローチをしております。ですので、タバコなど分野によってはターゲットは違うでしょうし、それぞれに向けて細かく発信していく段階かなと思っていますので、ご理解頂きたいです。

阿部会長

８年の中の３年目という事ですね。

事務局（武田課長）

はい、３年目です。

天野委員

パンフレットって、内容だけじゃないんですよね。いくら良いパンフレットを作ったとしても、伝わる、伝え方がきちんとたどり着かなかったら、伝わらないわけだから、内容プラス、パンフ

レットをどこで出したら良いのかとか、そういう部分を検討して欲しいなと思うのですけど。内容だけじゃなくて、その場で配れば良いとかじゃなくて、場所が適切なのかとか考えていかないとと思います。

事務局（廣瀬主査）

ご意見ありがとうございます。私達も、このパンフレットは３歳児を持つお母さんが良いのかとか１歳半のお母さんが良いのかだとか、また、他のところで配れたら良いのかだとか、検討することもありますけれども、今仰られたように基本を忘れてしまうこともありますので、そのような事に留意して、また作成と配布というのを、出来れば声を掛けて配布できる場を探すだとか心掛けていきたいと思います。

阿部会長

ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。

飯田委員どうぞ。

飯田委員

２点ほどございまして、まず一点確認なんですが、私の認識が違ったのかなと思いながら、この報告書を読んでいたのですが、計画そのものでは、石狩健康づくり応援団の件ですが、市民の健康づくりに、積極的に参加しようとする団体機関そういったものを応援団として認定するという書き方でなってるので、すでにある機関や団体が様々な活動を応援団として認定するのかなと思ったら、組織化が出来なかったという言い方をしており、集めて新たに組織をするのかなと、応援団として認定をする計画でなかったのかなという、そこが分からなかったです。

もう一点が、タバコの関係なんですけども、職員にもメール配信しながら、市の方は分煙ですか、ここは議会と庁舎が一緒で、各都道府県も含めて本庁舎は禁煙しますよ、施設内も禁煙しますよと言いますが、議会のほうは全然通らないとかと言って、二股で動いている動きもありますが、そういった中で、市町村は議会の会場も本庁舎の中にあるのであれば、なかなか難しい、一般市民が利用するのは議会ではなく、本庁舎の方が多くて、その中で、何が問題で少なくても施設内の、禁煙と言うのはどうして打ち出していけないのかなと思います。もし、分煙するのであれば、外にガラス張りの部屋でも作って、市民がタバコを吸っているのを見えるようにするくらいの気持ちがなかったら、そろそろこの時代になってきて、北海道そのものも、色々な関係機関が入ってきて、北海道医師会を中心にしながら、がん対策している中で、毎年ただ市民へあるいは職員へメール配信するっていうのは、いっこうに進んでいない気がします。もう少し対応されても良い時期でないかなと思います。

事務局（武田課長）

まず、一点目の応援団なんですけども、計画の書き方は幅広く動けるようにしております。認定すると言うことはそのとおり書いてますが、認定する仕組みは導入を進めながら検討しますし、

表彰とかステッカーとか手法を書いてまして、より良いものにするために関係者を集めた中で、より良い仕組みを作りたいと思っています。

実際健康づくりを積極的に行っている人たちに一方的に応援団として認定するというよりも、協働事業で行っている健康フェスタなど、一緒にやって頂いている団体とか、そういう人達と応援の仕組みを作っていけたらいいなと思っていまして、今年も事業をやっていますから、より効果的な仕組みをつくる事ができたらいいなと思ってます。組織ができなかったというよりも、いい仕組みを描けていなかったので、その点は反省しております。

市役所の話しになりますが、健康づくり計画は市民向けに我々が作って取組んでいます。市となると、市側の庁舎管理とかそれぞれの立場があって、実際に中では話が少しずつ進んでおりまして、例えば職員の対応をどうしたら良いのかとか、徐々にそういう動きにはなってきております。こちらが旗を振って進めていける立場にはございませんが、担当部局とは一緒に分煙について、話しを進めているところです。

天野委員

りんくるは、喫煙ができないようになっていますよね。一方、市役所は部屋を設けて。りんくるにいる職員は禁煙化を進めているのに、市役所庁舎の方は同じ職員なのに、なぜ禁煙化を進められないのか。

事務局（上田部長）

りんくるは総合保健福祉センターという位置づけで、平成 15 年から館内は禁煙施設となっております。庁舎は各フロアに、ドアが閉まる喫煙スペースが設けられている状態です。これから、受動喫煙の規制も進む中で、館内は禁煙ということになるかと思いますが、現状いつからそうなるというところまでは、話しが整っていない状況です。先ほどのお話しのとおり道庁で敷地内に喫煙場所を作って、スペースがありますが、仮に市の庁舎を禁煙とした場合に、敷地内にそういうのを設けるかも決まってないですし、一般の方も利用される中でどういう風に整理するのかというのは課題として残っております。

阿部会長

喫煙室は、各階にありますか。

事務局（上田部長）

各階に、一箇所あるいは複数箇所あります。

飯田委員

市民には吸う人も吸わない人もおり、全面禁煙、施設内禁煙、敷地内禁煙とやっても、十人十色で色々な方がいて、全員が賛成して生むかたちでなくて、この計画は市が作り上げて、市そのものが動いてなかったら、社長さんへお願い作戦と言っても、説得力もなくて、まず自分たちが

やらなきゃいけないということを発しなければ、こういう計画は進まないと思います。大阪なんかは、敷地内禁止です。すでにやっているところもあります。あとは、この計画について、どれだけ市長さんがやる気をもっているのということしかなくなってしまう気がします。

阿部会長

市の姿勢、市がモデルにならなきゃなと思います。それは、例えば３年計画とかで全廃するとか、それに向けて取組みますよとか言うと本気だなと思います。吸わない立場からは言いやすいんですよね。私の勤めている大学のかつてのあり方を言ってるようで、言いたくないのですが、例えば、キャンパス内全面禁煙なんですけど、そうなると、一時期はバス停が吸殻だらけになって、バス停で学生が吸っているというのが見られるわけなんですよね。そこまで指導しないのかというのが来るんですね。それでも、市役所が率先して禁煙政策を進めるということはいいことだろうと思います。

はい、ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。

大澤委員

さきほど天野委員が言われたとおりこれを見ていると、こうやりましたとかパンフレットを配りましたとかたくさんと取組みをしているのは分かるのですが、自分で感じたときに、例えば量るだけダイエット 100 日作戦で、市としてはどういう評価を持っているか、４年目ではなくて、聞きたいなと思っています。去年やりましたよね。この時だけでいいから、どういう評価をされて、部内ではされているのかなとお聞かせいただければなと思います。

事務局（廣瀬主査）

市民のみなさんにお知らせしたパンフレット中にも一部触れておりますが、体重の変化という結果ではもの足りなかったかなと思います。先進地での事例も見て３㎏以上痩せたという効果が表れた方の割合がもう少し多くても良かった。そこの部分については、量るだけという名前の誤解もあったかなと。１００日間の色々な講座をやったのですが、最初と最後しかお会いできなかった方もおり、その間のサポートの仕方が良かったのかとかメール配信なども行いましたが、参加者すべてが参加するわけではありません。忙しい方はこちらに来なくても、いいというメリットもあった反面、効果が見えにくかった、物足りなったという点では、先ほども話したとおり、反省が残りましたので、初回の面談の時に個々の減量の目標だとか普段の生活の様子も聞いて、アドバイス出来たらなと考えております。あと、アンケートの結果も出ておりますが、自分の生活習慣を見直すきっかけが出来たという点では評価が出来ます。また、１００日間取組んだから健康づくりは終わりではなく、一生続くわけですので、今回も前年度参加して頂いた方に積極的に声を掛けて再チャレンジして頂こうと思っております。

昨年の反省点を生かしながら続けて行っていきます。

大澤委員

そうすると、この 30 年の取組み予定というのは、評価のところに結びつくという事になるんですね。

事務局（廣瀬主査）

はい、そうです。

阿部会長

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

29 年度の取組み（実績）と 30 年度の取組み（予定）の間に、それぞれ評価はなされていると思うのですけれど、それが見えてこないというのがどうしてなのかなというところでしょうね。

そのほかご意見、ご質問等ございませんか。

よろしいですか。無いようですので、二点目の報告事項に移りたいと存じます。

「石狩市自殺対策行動計画の策定」について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局（白川主査）

保健推進課の白川です。

私からは、石狩市自殺対策行動計画〈仮称〉の策定について、ご報告させていただきます。資料 3 をご覧下さい。

本計画の策定背景は、平成 18 年に制定された自殺対策基本法が平成 28 年３月に改正され、これまで自治体の取り組みについて具体的な記載がありませんでしたが、この度の改正で、市町村に計画策定が義務付けられたためです。

策定にかかる期限等は明記されておりませんが、平成 29 年度中に、新たな自殺対策大綱が閣議決定されるとともに、厚生労働省から「市町村自殺対策計画策定の手引き」も発出されたことから、当市といたしましては、策定作業に着手し今年度末または来年度中の策定を目指すこととといたしました。健康づくり計画の一部として一体化することは困難と判断し、単独の計画といたします。

策定に当たっての検討組織としては、既に設置要綱のあります自殺対策連絡会議を活用し、市役所の庁内関係課会議を新設する予定です。資料の２番目に新たな大綱の概要を載せていますが、大綱に記載されている理念や内容をできるだけ盛り込む形で、平成 29 年度に行われた全国 14 市町村での計画作成モデル事業等も参考にしながら、作業を進めていきたいと考えております。

ここで、石狩市健康づくり計画（第２次）との関連について触れたいと思います。
計画書 47 頁の目標項目に挙げております自殺死亡率については、平成 31 年度の中間見直しの際に整合性を図る必要があるほか、休養・こころの分野のミッションの内容にも一部修正が必要となる可能性があります。

資料の中の、47 頁の表の抜粋をご覧下さい。H35 年の目標値が 19.0 以下とありますが、これは平成 24 年８月に閣議決定された旧自殺総合対策大綱の国の数値目標 19.4 に準じて設定し

たものでありました。今回の計画では、大綱の概要図の第５に記載されている部分ですが、平成 38 年までに自殺死亡率を平成 27 年の 18.5 と比べて 30%以上減少する（13.0 以下とする）という数値目標を参考にすることとなります。

最後に、自殺者数の推移についてご説明いたします。資料の裏面をご覧下さい。

我が国の年間の自殺者数は、平成 10 年に急増して年間３万人を超え、減少の兆しが見えない状態が何年も続きました。平成 18 年に自殺対策基本法が制定されて以降、自殺対策は大きく前進し、それまで「個人の問題」とされてきた自殺が「社会の問題」として広く認識されるようになり、自殺者数は平成 22 年から減少傾向を示し始めました。それでも依然として自殺死亡率は主要７カ国の中で最も高く、自殺者数は毎年２万人を越えています。

石狩市の状況ですが、６万人弱の人口規模では、数人の増減で自殺死亡率が大きく変動しますので、単純には比較できないものですが、全国や全道よりやや低い値で推移しています。市町村単位でできる自殺対策には限界があるかも知れませんが、全国の市町村がこれを行うことにより、我が国の自殺対策を前進させることが求められておりますので、当市といたしましても、自殺者の減少に向けて努力したいと思います。

私からは以上です。

阿部会長

ありがとうございます。只今の説明について、委員の皆様から質問等をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

今の石狩市の自殺者数の推移のところで、石狩市だけがすごく上下が、数自体がそんなに大きな数字じゃないから、その年の特性なのかもしれないけど、5.0 になったり、25.3 になったりと、何か理由があるのかなと見ると感じます。

天野委員

足して２で割ると１５位なんですよ。５と 25 で、２年分を平均すると。だから、それほど石狩市の説明が違うものではないと見ていたのですけども。

事務局（白川主査）

これは母数が小さいですので、石狩市程度の規模の市町村では、このような上下は、折れ線グラフにするとあり得るという事です。

阿部会長

はい、ありがとうございます。

阿部会長

あと、通常の表現は自殺というのでしょうけど、割と自死という言葉を使うようになってきてますよね。まだ、そんなに一般的じゃないかもしれないのですけれども、公的機関では自殺なん

でしょうね。

中川委員

国の方で３番目の裏のところのなんですけど、国が対策を練って、それで減少したということであれば、どういう事が効果があったという事が示されているのかなと思うんですけれど、その辺をおしえて頂けたらと思います。

事務局（武田課長）

国が自殺の背景を、今までだと最後にうつになって自殺するっていうだけじゃなくて、例えば借金だとか、体の具合だとか色んな複層するものが合わさった時に、落とし穴に落ちていくというような全体像を、市町村とかの関係者へ伝え、窓口の担当者がそういう理解のもと対応したこともありますが、一番大きなところは、リーマンショックの頃の３万人台の方が亡くなっており、経済状況が悪くなると心のケアをしても、一番の問題は借金問題が解消されなければ、自殺の原因になる根本が取り除かれないので、そちらの方を選んでしまう方がいます。経済環境が安定した事が減少の要因ではないのかという事が一般的に言われております。そこら辺については対策という事は言えないのかなと思っていますが、社会全体では、そういう部分が大きいと言われております。

中川委員

大きく動かすところに介入することは出来ないけれども、少し動かすところに対しては期待出来るだろうという事ですね。国が言っていることではないですね。国が自殺が減った事の理由を書いていたりするんですか。

事務局（白川主査）

いま、はっきりとまとまったものを持ち合わせてないのですが、例えばゲートキーパー研修というものが継続的に実施されており、自殺は追い込まれたものであり予防でき、また防ぐ事が出来る事を、広く啓発しようとしていて、一人一人の市民、国民が見守りとか傾聴するとかで、水際作戦と言いますけれども、悩んでいる人を見つけて、相談機関に繋げるということをきちんとやりましょうという啓発は強く行っていると思います。それが十分ではないとは思います。

中川委員

それが効果をもたらしているという文言はどこかにあったのでしょうか。

事務局（白川主査）

おそらくあると思うのですが、今資料等を持ち合わせておりません。

阿部会長

よろしいですか。他、ご意見、ご質問等ありませんか。

天野委員

今、武田課長が言っていた時に、自殺者が多くなるという事は経済的な事情も要因だという話を聞いていて気になったのですが、ゲートキーパーって心を支える方かなと思っていて、経済的な、不況に陥ったときに自殺者が増えるとすれば、自殺の防止は心もそうだけど、経済的な支援もやっていかなければならないですよね。その理由だとすれば。そこで、健康づくり計画では心はやっている位置づけもあるのですけども、経済的な支援の位置づけで何か考えているのでしょうか。

事務局（武田課長）

直接的にお金を提供するっていう事には、今までにあった制度で社会福祉協議会で借りる制度をお知らせしたりはしますが、自殺する方は最後にお金で悩む方であれば、お金で死ぬことはない、命を取られることはない事を広く伝える、また、例えば破産宣告をするですとか、借金を苦に命をとられる事はないという考え方も、広くケアするというか担当者も理解をもって対応していますし、保健師だけじゃなく弁護士さんとかそういう方も含めて会議をやったりとか、色々なサポートの手法を広く検討する場面も出来ておりますので、直接的にお金をお渡しするような政策的なものはないですけれども、救済制度をお知らせする、考え方を説明してあげて、みんなで救うというような事でサポートをしていくという事です。

事務局（白川主査）

今、生活困窮の支援が始まっていたりですとか、庁内会議を行う時にですとか、保健推進課とその所管課と連携したりですとか、納税課でも税金の滞納による督促もありますので、庁内で連携をできる部分があるので、支援が出来る事があるだろうと思われますので、検討していきたいと思います。

それと、中高年の自殺数は減っているですが、景気や雇用対策も実施され、50 代での死亡率は減っているのですけれども、減っていないのは 10 代 20 代 30 代の若者の自殺だと言われているので、教育部門も重要だと大綱ではうたわれていて教育委員会とも連携を図っていかなければいけないと考えております。

阿部会長

はい、ありがとうございます。他、いかがですか。

中川委員

お話しを聞いていて、どちらかというと啓蒙活動で改善しようという事だと思いますが、そういう方向と、実質的に効果があるピンポイントな行動をするだとかあると思いますが、そういう

事も検討されていくという事なのでしょうか。

事務局（武田課長）

先ほどの説明にも触れましたが、今、市役所内で関係者を集めて自殺に関係する、例えば、納税課ですね、自殺に関係ないのではないか思われる、このような部署も集めて、自殺の原因を幅広く認識してもらい、テーブルに付いてこれからどういう対策が考えられるのかを話し合う事を始めたばかりで、今やっている対策はまず進めていくという考え方はありますが、今は意見を広く拾い上げているような状況です。

阿部会長

はい、ありがとうございます。いかかですか。

それた事を言ってはいけないのですが、ミッシングワーカーという言葉が最近話題になっていましてね、ハローワークにも行けないで、仕事に就かないで親の介護をせざるを得なくて職を失ってしまっていて求職もできないという、そうなると親が死ぬとダメなんですよね。年金が入りませんので。石狩市も他人事ではなくなりつつあるのではないかなと思います。無縁ではないと思うので、そういう方々の中で自殺に追い込まれる人もおそらくいると思います。行政のどこにも引っ掛からないような方々が死ぬっていうケースはこれから起こり得る気がしていてその辺をどうやってフォローできるのかなと、ふと思いました。

事務局（廣瀬主査）

難しいのかもしれないのですが、私達はゲートキーパーの研修を行う中では民生委員さんですとか、町内会長さんにもお声がけをして研修を受けて頂いてのですが、やはり地域の方のご協力を得てご理解を頂いて、相談窓口に繋げて頂きたいと思っていますので、今後もそのような活動を地道に続ける事が大切かと思います。

阿部会長

はい、ありがとうございます。いかかですか。よろしゅうございますか。

俳句ではないのですが、おせっかいな社会がいいなと。どんどんそうじゃない社会になりつつありますね。見守りとか人間関係がちゃんと結べていれば、なんとか生き続ける事が可能かなと。

そういう意味でのあったかい五万数千人だといいなと思います。

他、ご意見・ご質問等ありませんか。

無いようですので、３点目の報告事項に移りたいと存じます。

「石狩市健康づくり推進協議会の委員改選」について、事務局より説明をお願いします。

事務局（笠井主査）

私からは、「本協議会の委員改選について」ご報告させていただきます。

まずは、委員皆様には、本市の健康づくり計画をはじめとする、各種健康づくりに関する施策

推進のために、日頃よりご協力を賜り、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、この度の委員改選についてですが、本年７月 31 日をもちまして、委員皆様の任期が満了となりますことから、次期改選に向けた準備を進めているところであり、一般公募委員の募集を、６月１日から開始したところでございます。

次期改選にあたりましては、石狩市健康づくり推進協議会設置要綱の規定に基づき、現在の委員構成を変更することとしております。

その理由としましては、本日報告しました「石狩市健康づくり計画」の「中間評価」を来年度に控えていることと、この中間評価に伴う、計画の後期見直しに向けて、国や北海道が設置する審議会等との委員構成も意識し、より広く、そして、より多くの関係者や団体から、ご意見等を頂戴したく、また、委員として、ご参加いただく関係者や団体を通じて、健康づくりに関する情報発信の更なる充実や、協働・連携の幅広い実現の可能性を広げるためにも、現行の委員構成を見直すこととしております。

関係する団体や公募委員の皆様など、引き続き、委員としてお願いすることもございますので、よろしくお願い申し上げます。

私からは以上です。

阿部会長

はい、ありがとうございます。只今の説明について、委員の皆様から質問等をいただきたいと思います。確認したい内容等ございますか。ございませんか。無いようですので、これをもちまして報告事項は終了いたします。

５．その他

それでは最後に次第５の「その他」となってございますが、事務局より何かございますか？

事務局（笠井主査）

次回の協議会開催のスケジュールについて、ご説明申し上げます。

事務局で検討しているスケジュールとしましては、今年度の協議会を、あと１回、秋頃の開催で予定しております。

私からは以上です。

６．閉　会

阿部会長

はい、秋頃の開催を予定しているという事ですね。

全体を通して委員の皆様から何かございますか。よろしいですか。

それでは、ここで、協議会会長として、私から一言申し上げます。

本日事務局より報告がありましたように、任期が７月 31 日までということで、本日の委員会が、このメンバーによる最後の開催ということになります。

これまでの協議会運営では、委員皆様のご理解、ご協力により、石狩市の健康づくりの推進及び地域特性に応じた健康づくり対策など、様々な議論、審議を円滑に進められたものと思います。次期改選では、引き続き委員として委嘱される方や、本日が最後の参加となってしまう方もおられるかと思いますが、あらためて、これまでの協議会運営への皆様のご尽力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、「平成 30 年度第１回石狩市健康づくり推進協議会」を閉会いたします。遅くまで皆様、お疲れ様でした。

ありがとうございました。

平成３０年　7月１０日　　議事録確定

石狩市健康づくり推進協議会　　会長　　阿 部　　包